

Science

大規模災害における 犠牲者の身元確認と情報技術



群馬県検視警察医、篠原歯科医院、
神奈川歯科大学

小菅 栄子

【略歴】

平成8年3月 神奈川歯科大学 歯学部卒業
平成8年4月 神奈川歯科大学
放射線学教室所属
平成17年9月 歯学博士号取得
平成22年5月 篠原歯科医院 院長

○研究歴

平成10年4月～「位相限定相関法を歯科エックス線画像に応用した個人
識別の研究」

平成19年11月 北米放射線学会 (RSNA) にて発表 (全米プレスリリース)

平成20年5月 歯科放射線学会にて学術奨励賞を受賞

他に、法医学会、法歯科医学会、歯科放射線学会などで発表

1. はじめに

思いがけず「道歯会通信」のページをいただき感激しております。紙面をお借りして、2011年3月11日に発生した東日本大震災における私たちの研究グループ（代表：青木孝文 東北大学 大学院情報科学研究科 教授・副学長）の身元確認支援の取り組みについてご紹介します。宮城県での取り組みが中心になりますが、ご了承ください。より詳しくはホームページ「身元確認と情報技術」（<http://www.aoki.ecei.tohoku.ac.jp/dvi/>）をご覧ください。

実は、私たちは2006年頃から「大規模災害に備えて数万人の犠牲者を想定した身元確認体制を構築し、その活動を支援する情報システムの整備を進めるべき」と主張してきました。これに初めて賛同してくださったのが、新潟県歯科医師会の先生方で、2009年の警察歯科医会全国大会（新潟）では、「情報技術を活用した身元確認に関する将来への提言」を発表し、大きな反響をいただきました。その後、大災害の発生に間に合うようにと、焦りのような切迫感を感じながら活動していた矢先に、東日本大震災が発生したのです。このときの衝撃は、今でも鮮明に思い出されます。

2. 東日本大震災における私たちの取り組み

宮城県は震災による犠牲者が最も多く、2013年5月10日現在で9,537体（全国計15,883体）もの遺体が発見され、行方不明者は1,312名（全国計2,676名）

を数えます。震災当初の遺体収容数は、1日当たり1,000体を超えた時期がありました。遺体検案所は合計で43カ所にのぼり、同時に稼働した検案所の最大数は26カ所でした。現在は、沿岸部の9カ所の警察署で検案が行われています。大規模災害では、このように検案所の配置や数が動的に変化することに留意し、身元確認の体制も状況に応じて柔軟に変更する必要があります。

3月の震災当初のご遺体は、顔貌や着衣、所持品などで身元を特定できる場合が多い状況でした。しかし、発災後1か月を経過すると、ご遺体の損傷が高度になり、確認が困難になりました。宮城県では、震災当初は、手書きのデンタルチャートを中心とした遺体の歯科情報収集を行っていましたが、4月からはより高度な確認手法の導入が必要になりました。ちょうどそのタイミングで、宮城県歯科医師会（身元確認班長）の江澤庸博先生と電話で連絡を取り、私たちの技術の提供を申し入れました。具体的には、①歯科検死標準機材をパッケージ化して（図1）、広域配置された検案所のすべての



図1 歯科検死標準機材パッケージの整備
①デンタルチャート、②防水・防塵・耐衝撃カメラ、
③ポータブルX線撮影装置を含む

ご遺体から、デンタルチャート、口腔内写真、歯科X線画像の3種を組織的に採取する仕組みを整備し、②生前カルテ情報と遺体情報を照合する歯科情報照合ソフトウェアDental Finder（図2）を開発するとともに、情報機器を提供してその運用を担当しました。また、①および②を基本とする

